

まえがき

近代日本における西洋音楽の受容と展開の歴史、および専門教育機関における伝統邦楽育成の歴史は、東京音楽学校を抜きにして語ることはできない。

明治十二年（一八七九）の音楽取調掛の設置に始まり、明治二十年（一八八七）の東京音楽学校の創立を経て昭和二十四年（一九四九）の東京芸術大学音楽学部発足から今日に至る百有余年の軌跡は、まさに日本近代音楽史の根幹をなしていると言っても過言ではない。

この百年史は、昭和四十三年から約四カ年をかけて、東京芸術大学音楽学部音楽取調掛研究班によって行われた研究成果を含めつつ、当大学に所蔵される未公表の手稿文書を中心に原典資料集としてまとめたものである。ここには伊澤修二をはじめとする幾多の先人の努力が、社会との関わりの中で克明に描き出されてゆく。

内容の構成は本紀体のスタイルをとって大きく明治時代、大正時代から東京音楽学校の終りまで、東京芸術大学時代の三つに画期し、各期ごとに項目別編年体として構成した。

今回の第一巻は、音楽取調掛（明治十二年～明治二十年）を含む明治時代の東京音楽学校を扱った。しかし、明治期に端を発した事柄であっても、時代を区切らず扱う方がより適切であると考えられる次の事項については第二巻で取りあげるとにした。

一、尋常小学唱歌集の作成

一、邦楽調査掛

一、奏楽堂を含む建物の変遷

一、演奏会プログラム

一、音楽取調掛および東京音楽学校作詞の唱歌歌詞

また、明治後期に任用された外国人教師の中で、活躍期が大正年間に大きくまたがるヴェルクマイスター、ペッツォルト、ショルツらについては第二巻で述べる。日本人教師についても東京音楽学校史の流れの中でとらえることが好ましいと思われるので第二巻でまとめる方針をとった。

今回の百年史明治篇作成に当ってご協力いただいた次の方々には深く感謝申し上げます。

ドナルド・バーガー氏（アメリカン・スクール教師、メーソンの書簡を提供）

ブルース・D・ウィルソン博士（メリーランド大学ホーンベーク図書館ABA研究センター長、伊澤修二のアメリカ留学

当時の写真提供）

佐藤治由氏（栃木県日光小学校校長、明治十三年にメーソンが日光を訪れた際の日誌を提供）

中村理平氏（日本大学史学科博士課程在学、エッケルト履歴を提供）

上原之節氏（元本学美術学部教授、上原六四郎の「音響學」講義録を提供）

松本善三氏（東京音楽大学教授、ディットリヒの資料提供）

中西隆紀氏（神田、月刊『本の街』編集長、ケーベル博士に関する資料提供）

久保いと氏（ケーベル博士の高弟故久保勉氏夫人、ケーベル博士の写真提供）

上笙一郎氏（児童文学研究家、ケーベル博士出演のプログラム提供）

土田英三郎氏（本学音楽学部助教授、中村専『和聲學ノート』提供）

田邊史郎氏（本学音楽学部助手、難解な手書き変体がなの読み下し）

土田典子氏（本学音楽学部助手、手書き英文の読み下し）

全般にわたってご協力いただいた長野県伊那市上伊那郷土館、日本近代音楽財団、社団法人東京芸術大学音楽学部同声会に対しても深く感謝申し上げます。

また本百年史の出版をお引き受け下さった音楽之友社社長浅香淳氏、制作部長中山正吾氏、製作を担当して下さいました課長林靖章氏に厚くお礼を申し上げます。

最後に本巻編集の実務にたずさわった音楽学部卒業生の小倉真理、川西真理、中村仁美、中村美耶の各氏の名前をあげてそのお骨折に感謝する。

昭和六十二年八月

服部幸三
山本文茂
船山隆
森節
橋本久美子